

2007年 2月19日

医師の過酷な労働実態が明らかに！

「医師の労働実態調査」中間報告

日本医療労働組合連合会（日本医労連）

日本医労連は自治労連と共同して、全国で深刻な問題となっている「医師不足問題」について、その実態を調査し、問題点や課題を明らかにすると同時に、国や自治体、関係団体等に改善を求める「医師不足問題に対する提言」をまとめるため、「医師不足問題の施設調査」と「勤務医の労働実態調査」を行った。

調査は、昨年（2006年）11月から今年1月にかけて、日本医労連加盟の医療機関とそこに勤務する医師、自治労連に加盟する自治体病院とそこに勤務する医師、さらに各加盟組織が地域の医療機関などに協力を呼びかけ、岩手や和歌山など数少ない県から「医療施設調査」や「医師の個人調査」が日本医労連に返送されてきた。

現在まだ各地で調査が継続して取り組まれているが、現在までに集計された、25道府県約150施設1,036名の医師の「個人調査」の結果を中間報告する。

1、勤務医の属性＝「30～40歳代」が7割、担当患者数が300名以上（入院）の医師も

①「医師の個人調査」に回答してくれ、現在までに集計されたのは1,036名分、男性が828名（80.2%）、女性は204名（19.8%）で、「年齢」は、20歳代164名（15.9%）、30歳代389名（37.7%）、40歳代328名（31.8%）、50歳代128名（12.4%）、60歳以上22名（2.1%）と「30歳から40歳代」が7割近くを占めている。

②「世帯状況」は、未婚者が26.5%、既婚者は67.3%で、「雇用形態」は常勤が81.8%、非常勤は7.3%、研修医も102名（9.9%）含まれている。また、「賃金」は月給制が91.5%、年俸制が3.9%、その他が1.3%となっている。

③「前月の担当患者数」は、記入されている数の平均で「外来」が214.6名、「入院」が21.4名となっており、多い医師では「外来」1000名以上、「入院」300名以上という人もいた。

④「担当科」は「内科」（120名）が最も多く、「外科」（112名）「産婦人科」（82名）「整形外科」（81名）「小児科」（77名）などが多かった。

2、3割の医師が「過労死ライン」の80時間以上の超勤、3割近くが「前月の休みゼロ」！

① 過労死まで引き起こしている勤務医の「勤務時間」の深刻な実態が今回の調査で明らかになった。「夜間・休日の救急医療の勤務体制」では、「交代制勤務」は6.1%で、他は「宿直・日直制」「待機・拘束」となっている。「前月の宿直回数」の記入者の平均は2.9回だが、「4回以上」が24.6%と4人に1人がほぼ毎週やっている。「日直の回数」の平均は1.0回、「前月の待機・拘束」の平均回数が11.1回と3日に1度やっており、「実際の呼び出し回数」の平均は4.3回となっている。

② 日勤後の宿直勤務で、宿直明け後の勤務が「無い」のは、3.3%のみで、74.5%の医師が「宿直明け後も勤務」している。日勤後の宿直、宿直明けの日の勤務という（8+16+8＝）32時間勤務を7割以上の勤務医が月3回位行っていることになる。

③「1日の労働時間」の平均は10.5時間であったが、「12時間以上」が44.5%と半数近くおり、「週の労働時間」も平均は58.4時間だが、「65時間以上」が32.7%と3分の1となっている。

④「最長の連続した勤務時間」の平均は32.3時間であったが、「36～41時間」の連続勤務時間が最も多く36.8%おり、「30時間以上」は71%と7割を超えている。

「最長の連続した勤務日数」の平均も19.5日と時間外労働と合わせ、睡眠時間も取れず、休みも取

れない勤務医の超長時間労働が常態化している。

⑤「時間外労働」では、「平均的な1日の時間外労働時間」が、記入者の平均で1日大体2.7時間となっているが、「4時間以上」が24.2%と4人に1人、「前月の総時間外労働時間」の平均は63.3時間となっているが、3割を超える31.2%の医師が「過労死ラインの80時間以上」の時間外労働を行っている。

「時間外労働の請求をしている」医師は38.6%で、「時々請求」(27.2%)「請求しない」は30.5%と3割の医師が時間外手当を請求していない。

⑥「休憩時間」も「取れる」のは20.8%のみで、「あまり取れない」医師が54.4%と半数を超えており、「まったく取れない」医師も23.3%と、8割近くが休憩も取れない労働実態にある。

さらに「休暇の取得」でも「前月休んだ日数」の平均は3.3日で、週1回も休みが取れておらず、「前月休んだ日数ゼロ」の医師も280人(27.0%)もいた。また、「昨年1年間の年休取得日数」の平均は3.7日で、「ゼロ」の人も289人(27.9%)いた。

3、女性医師のほとんどが生休も取れず、「妊娠時の異常」が6割近く

① 女性医師の「生休取得」は、「取れない」が97.9%と、ほとんどの人が取れず、出産経験者の「妊娠時の状況」も「順調」は42.6%で、6割近くの女性医師が妊娠時の異常を経験している。「切迫流産」の経験者も2割以上となっている。

②「妊娠時に受けた保護・支援措置」では、「特に措置を受けなかった」人が24.1%おり、受けた人では「夜勤・当直免除(42.6%)や軽減(27.8%)」が多くなっている。

4、「健康不安、病気がち」が4割以上、9割以上が「疲労を感じ」、5割以上が「職場をやめたい！」

①「健康状態」の設問に対し、「健康である」と回答した医師は53.1%であったが、「健康に不安」(34.4%)「大変不安」(6.3%)と、「病気がち」の医師2.5%を合わせると、4割以上の医師が「健康不安・病気がち」の状態にある。特に50歳代の医師の「健康不安」が多い。

②「疲れの状態」も「別に疲れを感じない」医師は6.5%にすぎず、「疲れを感じるが次の日までには回復している」(31.1%)「疲れが翌日まで残る」(40.2%)「休日でも回復せず、いつも疲れている」(19.0%)の「慢性疲労状態」の医師が6割、「疲労を感じる」医師は9割を超えており、特に30～40歳代の医師の疲れが深刻となっている。

③ このような労働実態、疲労・健康状態のなかで「職場をやめたい」という医師も「いつもあった」(10.5%)「しばしばあった」(16.1%)「時々あった」(26.3%)と52.9%、5割以上の医師が「職場をやめたい」と考えており、「なかった」のは23.3%にすぎない。特に「30～40歳代」の医師の約6割が「職場をやめたい」と考えている。

5、9割が「医師不足」を感じ、「賃金・労働条件の改善」を8割以上の医師が求めている

①「医師不足」を感じている医師は90%に達し、「感じてない」は5.5%にすぎない。

②「医師確保・退職防止に必要な条件・環境」について該当する項目すべてを選んでもらった中では、「賃金や労働条件の改善」(85.8%)が8割以上の医師が求め最も多く、次いで「診療科の体制充実」(51.4%)、「看護師・メディカルを充実して医療体制のレベルアップ」(44.6%)、「医療事故防止対策の充実」(41.8%)、「国や自治体、大学の対応の改善」(41.6%)などを4割を超える医師が求めている。

③「自由記入欄」に「医師不足の実態や勤務・体制等への要望」を記入してもらったが、364人の医師が詳しく実態や国や自治体などへの要望を書いている。

その中では、特に「当直明けの休み」や「休日の保障」などの勤務状態の改善、「医療事故や訴訟等の不安」「国や大学への改善の要望」等が多かった。